後関	番号	를		3	3	2	6 0 4	2. 研究機関名	大妻女子大学		
Ŧ究和	重目:	名		基盤	研究	莌(B	)(一般)	4. 研究期間	平成26年度~平成28	年度	
					1	.1		<b>ホレ介護医療公照への</b>	広田		
			-	/II <del>X</del>	:17L   🗷	31)L 2	アレルナ 高戦能の残化   王計	叫C月 接区惊刀到"NO)	mm.		
			者	番	号		研究代表者名	所り		職	2
0	2	6	1	0	5	8	ミズタニ チヨミ 水谷 千代美	家政学部		教授	
· · · · · ·	· 分担 i	耆				•				<b>'</b>	
石	F 3	້ເ	者	番	号		研究分担者名	所属研	究機関名・部局名	職	2
0	1	3	3	1	3	3		信州大学・繊維学部		特任教授	Ž
0	4	4	8	3	8	5	ヒロタ リョウジ 弘田 量二	高知大学・教育研究	部医療学系連携医学部門	講師	
							ホソヤ サトシ	信州大学・学術研究院繊維学系教授		教授	
0	2	9	3	5	0	0					
		T究種目   表題   T究研究   O   T究研究   O   O   O   O   O	0 2 6 F究分担者 研 究 0 1 3	デ究種目名	T究種目名   基盤     段題   名     1穴課題名   一     研究   者     0   2   6   1   0     1   3   3   1     0   4   4   8   3	研究   基盤研究     基盤研究   2 6     所究   者番号     0 2 6 1 0 5     研究   者番号     0 1 3 3 1 3     0 4 4 8 3 8	F: T:	F:   A   A   A   A   A   A   A   A   A	接触研究(B)(一般)	接関番号   3   2   6   0   4   2. 研究機関名   4. 研究期間   平成26年度~平成28   2   8   2   0   1   4	YR

アレルギー性皮膚炎患者は,化学繊維製の衣服を着用した際にかゆみ,湿疹,かぶれなどの症状に苦しんでいる。皮膚科医はアレルギー性皮膚炎患者に対して,ポリエステルのような化学繊維の着用を避けて綿繊維の着用を薦めている。しかし,なぜ綿繊維がよいのかが実証されていない。本研究は,アレルギー性皮膚炎患者の皮膚の水分,油分,弾力および皮膚pHを健常者と比較し,皮膚のかゆみの原因を調べた。アレルギー性皮膚炎患者の皮膚pHは健者者よりも高く,皮膚水分は健常者よりも低いことが分かった。通常、人間の皮膚表面には表皮ブドウ球菌のような善玉菌を覚色ブドウ球菌のような悪玉菌が活発になると大人間の皮膚表面には表皮ブドウ球菌のようなき玉菌と対している。本実験結果よりアレルギー性皮膚炎患者の皮膚pHが高いことから,黄色ブドウ球菌の働きが活発になりかゆみが発症したと考えられる。次に,同程度の力学的特性値を示す綿とポリエステル試料布をアームカバーにし,繊維の違いがアレルギー性皮膚炎患者の着用感およびかゆみなど皮膚に与える影響について調べた。その結果,アレルギー性皮膚炎患者は綿よりポリエステルの方が不快だと感じた。しかし,曲げ特性が大きく硬い綿と曲げ特性が小さく柔らかいポリエステルを比較すると,硬い綿の方が柔らかいポリエステルよりも不快と感じた。したがって,試料布の硬さが物理的刺激となって皮膚を刺激してかゆみが起こり,たとえ綿であっても硬い綿布はアレルギー性皮膚炎患者の皮膚を刺激して不快感を与えることが分かった。

10	. +	ーワ	<b>—</b>	ド
10	. —	_ ,		

(

(1)	ア	レノ	レギ	一性	皮	層炎
-----	---	----	----	----	---	----

(2) 化学繊維アレルギー

	ر ر فید	
(3)	ホリ	エステノ

	L	7	ь	_	
(4)	c	ㅅ	タ	=	ز

(6)	

	_		
17	١.		

( . )			
(8)			

注)・印刷に当たっては、	A 4 判 ( 編	縦長)・	両面印刷す	るこ	ے,
--------------	-----------	------	-------	----	----

1	1	現在	<b>±</b>	での	)	步状況
---	---	----	----------	----	---	-----

(区分)
(理由) 28年度が最終年度であるため、記入しない。
2. 今後の研究の推進方策 等
(今後の推進方策) 28年度が最終年度であるため、記入しない。
(次年度使用額が生じた理由と使用計画) (理由) 28年度が最終年度であるため、記入しない。
(使用計画) 28年度が最終年度であるため、記入しない。

(課題番号: 26282014)

# 13.研究発表(平成28年度の研究成果)

「雑誌論文 】 計(3)件/うち査読付論文 計(2)件/うち国際共著論文 計(0)件/うちオープンアクセス 計(0)件

	り国际	八日冊入		, , , , , ,		
著 者 名			論	文 標 題		
Chiyomi Mizutani, Akemi Yahata, Katsusaza Takahashi, Hirofusa Shirai, Takako Tokuyama and Kanji Kajiwara	Human F	riendly App	lication of Functio	nal Fibers in A	ging Society	
雑誌名		査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	国際共著
Proceedings of the AHFE 2016 International Conference on Affective and Pleasurable Design	1	有	483	2 0 1 1 6	129-135	-
掲載論文のDOI	(デジ	タルオブジ:	ェクト識別子)			
なし						
オープンアクセス						
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難						

		論 文 標	題【掲	<b>掲載確定</b> 】		
			肖臭抗菌加工 ~ 酸	導入ポリエステルが!	臭いおよび	
	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	国際共著	
	有	印刷中	2 0 1 1 7	印刷中	-	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)						
なし						
オープ	ンアクセス					
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難						
	皮膚のpi	皮膚のpHに与える影響を	ボリエステル製スボーツウェアの臭いと対 皮膚のpHに与える影響 ~ 査読の有無 巻	ボリエステル製スボーツウェアの臭いと消臭抗菌加工~酸皮膚のpHに与える影響~	ボリエステル製スポーツウェアの臭いと消臭抗菌加工~酸導入ボリエステルが 皮膚のpHに与える影響~ 査読の有無 巻 発行年 最初と最後の頁 有 印刷中 2 0 1 1 7 印刷中 (デジタルオブジェクト識別子)	

著 者 名			論	文 7	標 .	頁	
水谷千代美、川之上豊、平野泰宏、土田百恵、弘田量二	化学繊維	誰がアレルギ	ー性皮膚炎患者の皮膚	書に与え	る影響		
雑 誌 名		査読の有無	巻	発	行年	最初と最後の頁	国際共著
				ı	1 1		
Laterantical Laurent of House Ordinar Ordinar		4117	07			040 040	
International Journal of Human Culture Studies		無	27	210	116	210-212	-
				li	i i		
掲載論文のDOI	(デジ	タルオブジ:	ェクト識別子)			<u> </u>	<u> </u>
なし	(		_ , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,				
オープンアクセス							
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難							
_				•	•		•

### 〔学会発表〕 計(5)件/うち招待講演 計(0)件/うち国際学会 計(2)件

(12/2// 11 ( 2 / 11 ) 2 2 3 11 3 11 3 11 3 11 3 11 3 11		-		
発 表 者 名		発 表 標 題		
土田百恵、水谷千代美、川之上豊、平野泰宏、弘田量二、梶原莞爾	布帛の風合いがアレルギ	一性皮膚炎患者の皮膚に与える影響		
学 会 等 名	発表年月日	発表場 所		
2016年日本繊維製品消費科学会年次大会	2016年06月25日 ~ 2016年06月26日	東京家政大学(東京都板橋区)		
発 表 者 名		発 表 標 題		
水谷千代美、土田百恵、川之上豊、平野泰宏、弘田量二、梶原莞爾	アレルギー性皮膚炎患者のかゆみ出現の原因			

発 表 者 名		発 表 柞	票 題
水谷千代美、土田百恵、川之上豊、平野泰宏、弘田量二、梶原莞爾	アレルギー性皮膚炎患者のかゆみ出現の原因		
学 会 等 名	発表年月日		発表場所
2016年日本繊維製品消費科学会年次大会	2016年06月25日~	東京家政大学(東京都	板橋区)
	2016年06月26日		

発 表 者 名		発 表	標題	
Chiyomi MIzutani,Momoe Tsuchida, Ryouji Hitota, Kanji Kajiwara	Effect of Weak Acidic	Polyester on Odor a	nd Skin Condition	
学 会 等 名	発表年月日		発表場 所	
The International Federation for Home Economics(IFHE) world Congress 2016(国際学会)	2016年07月31日 ~ 2016年08月06日	Daejeon Conventio	on Center (Daejeon,	Korea)

発 表 者 名		発	表 標	題
Chiyomi Mizutani, Akemi Yahata, Katsusaza Takahashi, Hirofusa Shirai, Takako Tokuyama and Kanji Kajiwara	Human Friendly Applica	ition of Funct	ional Fibers	in Aging Society
学 会 等 名	発表年月日		発	表場所
AHFE2016 International Conference on Affective and Pleasurable Design(国際学会)	2016年07月27日 ~ 2016年07月31日	Walt Disney	World (Flo	rida, USA)

発 表 者 名		発 表	標題
榎本彩乃、細谷聡	腰背部の伸展補助機能を有するアンダーウェアに関する研究		
学 会 等 名	発表年月日		発 表 場 所
第 1 2 回日本感性工学会春季大会	2017年03月29日 ~ 2017年03月30日	[上田学園上田安子]	B飾専門学校(大阪府大阪市)

# 〔図書〕 計(1)件

著 者 名		出 版 社	
水谷千代美、藤田直哉、大崎敏郎、税田祥平、鈴木健一、牧原弘子、後藤雅宏、伊福伸介、矢井田修、今西康子、杉浦晃治、杉山公寿、内藤昌信、開發邦宏、田中伸幸、勝圓進、中山鶴雄、二川浩樹、寺尾啓二、射下康夫他41名	技術情報協会		
書名		発行年	総ページ数
衛生製品とその材料開発事例集、第4章第8節介護用品や介護器具に求め 例	られる消臭性とその付与事	2 0 1 6	349(128-134)

# 14.研究成果による産業財産権の出願・取得状況

### 〔出願〕 計(0)件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	出願年月日	国内・外国の別

# [取得] 計(0)件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	取得年月日	国内・外国の別
				出願年月日	
					f I

# 15.科研費を使用して開催した国際研究集会

# 〔国際研究集会〕 計(1)件

	55.41.4-5-5	
国際研究集会名	開催年月日	開催場所
Research trends in architectural engineering, dwelling design, and textile from view of human- living environment	2016年06月25日~2016年06月25日	名古屋大学ES総合館(愛知県名古屋市)

# 16.本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

(1)国際共同研究:国際共同研究である

共同研究相手国	相手方研究機関				
デンマーク	デンマーク工科大学	-	-	-	
-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	
-					

17.備考		